



2024年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(非連結)

2023年8月10日

上場会社名 株式会社アルファポリス

上場取引所 東

コード番号 9467 URL <https://www.alphapolis.co.jp/company/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 梶本 雄介

問合せ先責任者 (役職名) 取締役兼管理本部本部長 (氏名) 大久保 明道

TEL 03-6277-0123

四半期報告書提出予定日 2023年8月10日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第1四半期の業績(2023年4月1日～2023年6月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第1四半期	2,421	26.8	524	21.4	525	21.2	325	21.2
2023年3月期第1四半期	1,909	12.1	431	7.9	433	7.9	268	7.9

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第1四半期	33.64	
2023年3月期第1四半期	27.76	

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載していません。

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第1四半期	12,342		10,611			86.0
2023年3月期	12,436		10,285			82.7

(参考) 自己資本 2024年3月期第1四半期 10,611百万円 2023年3月期 10,285百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期		0.00		0.00	0.00
2024年3月期					
2024年3月期(予想)		0.00		0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年3月期の業績予想(2023年4月1日～2024年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	10,000	7.7	2,300	4.9	2,300	5.2	1,426	5.3	147.21

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年3月期1Q	9,687,400 株	2023年3月期	9,687,400 株
期末自己株式数	2024年3月期1Q	270 株	2023年3月期	270 株
期中平均株式数(四半期累計)	2024年3月期1Q	9,687,130 株	2023年3月期1Q	9,687,130 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料の入手方法)

決算補足説明資料はTDnetで同日開示しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第1四半期累計期間	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	6
(セグメント情報等)	6
(重要な後発事象)	6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間(2023年4月1日から2023年6月30日まで)におけるわが国経済は、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって緩やかな回復がみられるものの、海外景気の下振れによるリスクや物価上昇等による影響が懸念される等、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社が属する出版業界におきましては、2023年上半年(1月から6月まで)の紙と電子を合算した出版市場(推定販売金額)は、前年同期比でマイナスとなりました。公益社団法人全国出版協会・出版科学研究所によると、2023年上半年の紙と電子を合算した推定販売金額は前年同期比3.7%減の8,024億円となり、その内訳は、紙の出版物については同8.0%減の5,482億円、電子出版については同7.1%増の2,542億円と、紙の市場が前年同期を下回った一方で、電子出版市場の拡大が続いております。

こうした環境の中、インターネット発の出版の先駆者である当社は、「これまでのやり方や常識に全くとらわれず」、「良いもの面白いもの望まれるものを徹底的に追求していく」というミッションの下、インターネット時代の新しいエンターテインメントを創造することを目的とし、インターネット上で話題となっている小説・漫画等のコンテンツを書籍化する事業に取り組んでまいりました。

当第1四半期累計期間における書籍のジャンル別の概況は以下の通りであります。

① ライトノベル

当第1四半期累計期間の刊行点数は前年同期を大きく上回る84点(前年同期比25点増)となりました。当社投稿サイトにおける人気作やWebコンテンツ大賞の受賞作等の中から、『没落した貴族家に拾われたので恩返しで復興させます』『狙って追放された創聖魔法使いは異世界を謳歌する』等のヒットシリーズへの成長が期待される新作を複数刊行し、好調な売れ行きを示しました。また、電子書籍販売につきましては、引き続き親和性の高い女性向け小説を中心に販売数を伸ばし、売上を牽引いたしました。

結果、当第1四半期累計期間の売上高は前年同期を上回る着地となりました。

② 漫画

当第1四半期累計期間の刊行点数は前年同期を上回る35点(前年同期比3点増)となりました。各書籍の売れ行きにつきましては、シリーズ累計680万部を突破した『ゲート』を筆頭に人気シリーズの続刊が引き続き好調に推移いたしました。また、当ジャンルと親和性が非常に高い電子書籍販売につきましては、販売体制の更なる強化に注力したことや電子ストアとコミュニケーションを密に図り作品露出の強化等の拡販施策を推進したこと等が奏功し、新刊タイトルのみならず既刊タイトルも大きく販売数を伸ばすことができました。

結果、当第1四半期累計期間の売上高は前年同期を大幅に上回る着地となりました。

③ 文庫

当第1四半期累計期間の刊行点数は前年同期を上回る43点(前年同期比8点増)となりました。シリーズ累計137万部を超える『居酒屋ぼったくり』の著者による時代小説『きよのお江戸料理日記』の続刊が引き続き好調に推移し、当ジャンルの売上を牽引いたしました。さらに、第5回キャラ文芸大賞において恋愛賞を受賞した『大正石華恋物語』を刊行する等、取り扱いジャンルの強化にも引き続き注力してまいりました。

結果、当第1四半期累計期間の売上高は前年同期を上回る金額で着地いたしました。

④ その他

当第1四半期累計期間の刊行点数は前年同期と同数の1点となりました。当社Webサイトで人気のビジネス連載を書籍化した『意志の力に頼らないすごい独学術』を刊行し、引き続き新規ジャンルの開拓及び拡大に取り組んでまいりました。

結果、当第1四半期累計期間の売上高は前年同期を上回る金額で着地いたしました。

以上の活動の結果、当第1四半期累計期間の売上高は2,421,312千円(前年同期比26.8%増)、営業利益は524,177千円(同21.4%増)、経常利益は525,680千円(同21.2%増)、四半期純利益は325,922千円(同21.2%増)となりました。

(注) シリーズ累計部数：同作品の続編に加え、同作品の漫画及び文庫を含む。また部数は電子書籍販売数を含む。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産

当第1四半期会計期間末の流動資産は、前事業年度末に比べ100,977千円減少し、11,997,123千円となりました。これは主に、現金及び預金が増加（前事業年度末比29,359千円増）した一方で、売掛金が減少（同147,806千円減）したことによるものであります。

固定資産は、前事業年度末に比べ7,247千円増加し、345,147千円となりました。これは主に、無形固定資産が減少（同2,918千円減）した一方で、投資その他の資産が増加（同10,923千円増）したことによるものであります。

② 負債

当第1四半期会計期間末の流動負債は、前事業年度末に比べ414,698千円減少し、1,695,251千円となりました。これは主に、未払法人税等が減少（前事業年度末比375,347千円減）したこと及び返金負債が減少（同59,954千円減）したことによるものであります。

固定負債は、前事業年度末に比べ4,953千円減少し、35,375千円となりました。これは主に、長期借入金の減少（同4,619千円減）によるものであります。

③ 純資産

当第1四半期会計期間末の純資産は、前事業年度末に比べ325,922千円増加し、10,611,644千円となりました。これは全て、利益剰余金の増加によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年3月期の業績予想につきましては、2023年5月12日に公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

なお、業績予想につきましては、本資料の発表日において入手可能な情報に基づき判断したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2023年3月31日)	当第1四半期会計期間 (2023年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,771,740	8,801,099
売掛金	2,800,422	2,652,615
製品	251,162	272,769
仕掛品	206,227	220,767
その他	68,548	49,871
流動資産合計	12,098,101	11,997,123
固定資産		
有形固定資産	30,053	29,296
無形固定資産	33,842	30,924
投資その他の資産	274,004	284,927
固定資産合計	337,900	345,147
資産合計	12,436,001	12,342,271
負債の部		
流動負債		
買掛金	74,044	46,096
1年内返済予定の長期借入金	25,040	22,138
未払金	689,011	687,264
未払法人税等	586,712	211,364
賞与引当金	49,450	14,774
投稿インセンティブ引当金	28,898	31,567
返金負債	457,442	397,488
その他	199,349	284,558
流動負債合計	2,109,950	1,695,251
固定負債		
長期借入金	37,959	33,340
その他	2,369	2,035
固定負債合計	40,328	35,375
負債合計	2,150,279	1,730,627
純資産の部		
株主資本		
資本金	863,824	863,824
資本剰余金	853,824	853,824
利益剰余金	8,568,710	8,894,632
自己株式	△637	△637
株主資本合計	10,285,722	10,611,644
純資産合計	10,285,722	10,611,644
負債純資産合計	12,436,001	12,342,271

(2) 四半期損益計算書
(第1四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
売上高	1,909,215	2,421,312
売上原価	487,813	607,012
売上総利益	1,421,401	1,814,300
販売費及び一般管理費	989,632	1,290,123
営業利益	431,769	524,177
営業外収益		
受取利息	0	0
前払式支払手段失効益	1,942	1,462
その他	—	88
営業外収益合計	1,942	1,552
営業外費用		
支払利息	44	48
営業外費用合計	44	48
経常利益	433,668	525,680
税引前四半期純利益	433,668	525,680
法人税等	164,794	199,758
四半期純利益	268,874	325,922

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

当社は、出版事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。